

### 教育システムのあり方について

- ・望ましい学びを実現することを教育に関する制度、仕組みが妨げている。
- ・学校の変わりにくいシステムから変わるシステムを作っていく議論をしていきたい。
- ・地方創生の鍵は教育。
- ・教育はすべての政策の基本。
- ・教育への重点的な予算配分が必要。
- ・長野県こそ持続可能な教育を進めていくべきではないか。

### 学校の自治による学校づくりについて

- ・校長の裁量権を強めることが出来れば、学校を変えていくことが可能。
- ・本当は学校にはもっと自治権があるはず。
- ・マネジメント力のある校長の主体的な学校自治の保障。
- ・校長にマネジメント力をつける研修体系ができていくか。
- ・若い教員が校長とともに、子どもたちが来たいと思える学校づくりができるか。
- ・変えていくときには若い教員が必要で、予算の配当、重点的な人の配置が必要。
- ・学校や先生が自由になることが重要で、それを教育行政が支える必要がある。

### 学校における働き方改革と、教職の魅力向上について

- ・現場を信頼し、教員をパートナーとして仕組みを作っていくことが学校を変化させるカギ。
- ・自立した教育者の自由な意思決定を尊重するべき
- ・教員の働き方改革と職業としてのイメージアップが重要。
- ・フィンランドでは教員の専門性が高く、人気があり、校長に予算権限があり、校内にカフェのような環境もある。

- ・日本の学校は忙しく学び直しも出来なければ、家族を大切にしながら働ける環境でない。
- ・中山間地の学校を希望する教員がいない。
- ・教科を学ぶ時間で精一杯で子どもが好きなことを追求する時間が取れない。
- ・先生に余裕ができることが重要。業務支援員の配置や部活の地域移行を促進する必要。
- ・教員を志望する学生が減少しており、危機的状況。
- ・現場で子どもたちと向き合う教員を支える体制づくりが何よりも大切。

### 全ての人に魅力ある学校になるための仕組み・価値観について

- ・地域や民間等、多様な連携で子どもたちの育ちを支えることが大切。
- ・教育という世界、価値観の固定、集団の行動規範に苦しむ子どもや保護者がたくさんいる。
- ・未来を考え、周りがどのように価値観を変えていくことができるのか大切。
- ・高校入試の在り方の抜本的な見直しと県独自の教員配置基準について議論ができれば。
- ・子どもたちがその地に生まれたことを誇りに思えるような学校を目指すべき。
- ・学校が安心でき、来たいと思ってもらえる場所になることが重要
- ・授業を支える学習環境が弱い。
- ・私学の先進的な取組を公立に取り入れてもよいのではないか。

### [荒井座長議論のまとめ]

- ・教育に関するこれまでの当たり前を変えていくこと
- ・学校の自治、教師の自由を保障するため、教育システムのあり方を問い直していくこと